

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4671200527
法人名	医療法人 サンライフ
事業所名	国分府中グループホーム
訪問調査日	平成20年5月2日
評価確定日	平成20年5月26日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4671200527
法人名	医療法人 サンライフ
事業所名	国分府中グループホーム
所在地 (電話番号)	霧島市国分府中町13-15号 (電話) 0995-48-6613
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年5月2日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	2 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (150,000円)	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国分外科胃腸科 いちち眼科 清水整形外科 吉永歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市の中心部に近く、商業施設や官公庁、医療施設等が建ち並んでいるものの、周辺には所々に畑が残り、折々の季節を感じることもできる。ホーム内は広々としたスペースにリビングルームや居室があり、ゆったりとした気分で過ごすことができる。健康管理の面では、母体の医療機関に隣接しているため必要な場合はいつでも医師の診察、治療を受けることができ、安心して生活できる環境である。職員教育には特に力を入れており、職員の段階に応じて勉強会を開き、外部研修にも計画的に参加してサービスの質向上に活かしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「運営理念の啓発」については、地域での活動を通じてホームの紹介や意義・役割の説明等を行っている。「地域の人達との交流の促進」については、公民館長の協力もあり地区の行事へ見学参加したり、日常の外出の際に地域の方々と会話する機会をなるべく多く持つように取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価への取り組みは、管理者を中心に職員全体で話し合い現状を確認している。前回の外部評価の改善課題についてはミーティングにて話し合いを持ち、改善のための対策を検討している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの活動報告をはじめ行事案内や散歩コースの検討、自己評価や外部評価の結果報告等が行われている。会議の内容については、ミーティング時に職員へ報告されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの取り組みについては、全てご家族へ意見をうかがうようにしており、ご家族からも意見が出されている。入居者のご家族同士の繋がりもでき、ホーム外でも交流する機会を持たれ、そこで出された意見等については気軽にホームへ表出されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の行事へ参加できるように公民館長と連絡を取り合ったり、買い物等で外出した際は、地域の方々とできるだけ会話する機会を持つよう(して)交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『いきいき のびのび ゆったりと』を理念に掲げ、家庭的な雰囲気の中で生活し、地域の方々とのふれあい交流のある暮らしを目指して取り組んでいる。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、常に理念を意識したケアを心掛けて取り組んでいる。月1回のミーティング時に、サービス提供場面において理念が反映されているかを職員間で確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の行事へ参加できるように公民館長と連絡を取り合ったり、買い物等で外出した際は、地域の方々とのみだけ会話する機会を持つようにして交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価への取り組みは、管理者を中心に職員全体で話し合い現状を確認している。前回の外部評価の改善課題についてはミーティングにて話し合いを持ち、改善のための対策を検討している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの活動報告をはじめ行事案内や散歩コースの検討、自己評価や外部評価の結果報告等が行われている。会議の内容については、ミーティング時に職員へ報告されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常の業務で申請等必要がある時に市の担当部署へ出向き、手続きや報告を行っている。市が開催する学習会や健康福祉祭への参加協力を通して、ホームの考えや現状を話す機会がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会は頻繁に行われており、その都度、必ず職員が居室にて入居者とともに現状について話す時間を設けている。ホーム便りを年3～4回ご家族へ送り、行事等の活動状況や暮らしぶりについて写真を添えて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの取り組みについては、全てご家族へ意見をうかがうようにしており、ご家族からも意見が出されている。入居者のご家族同士の繋がりもでき、ホーム外でも交流する機会を持たれ、そこで出された意見等については気軽にホームへ表出されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでに異動や離職は無く、管理者は働きやすい職場づくりを心掛けており、職員一人ひとりの家庭背景等に配慮した勤務体制づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や習熟度に応じた研修計画を立て、段階的に実施している。職員の中で教育指導者を定め、日常業務の中での教育体制が整備されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加入し、勉強会やディスカッション、情報交換等が行われている。また、地域のグループホームとの連絡も頻繁に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できるだけ本人が納得された上での入居を心掛けており、拒否の強い方へは十分に時間を使ってお茶飲み交流から始め、慣れてきた段階で入居していただくように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	テレビを見ながら昔のことを話題にすることで、さまざまな学びが得られたり、調理場面においては、調理の仕方や味つけについてアドバイスをいただく場面がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの表情や言動、癖などを見て、その時どのようにしたいのかを判断している。また、ご家族からこれまでの習慣や暮らしぶりなどの情報を得て参考にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族とともに状態確認を行い、目標を立てている。また、介護計画の内容については必ずご家族に確認してもらい、意見をいただいて必要時には修正している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回ケースカンファレンスを行い、現状と介護計画の内容について確認している。計画変更は、更新時に限らず、状態変化時に度々行われている。		ケアの見直しについての内容が毎日の介護記録に記載されているため、分かりやすくまとめて職員間で共有できるような記録様式を検討している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的な健康診断や検査のための受診、及び点滴等の必要な医療処置が受けられるような支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族と話し合いがなされ、納得の上で隣接した母体医療機関へ主治医を変更している。状態に応じて、訪問診療を受けられるように支援したり、他科受診をご家族と連携して支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重症化した場合の対応や看取りに関する考え方などについて、入居時に職員も交えて説明し、本人及びご家族の意思確認と方針の共有に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	サービス提供場面において入居者の誇りやプライバシーを損ねることが無いように、気づいた都度指導を行っている。現在、トイレ誘導時の声かけについて、入居者の誇りを傷つけないように特に留意して取り組んでいる。記録類は、場所を1ヶ所にまとめて保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急がせて物事を達成するというより、入居者それぞれのペースに合わせてゆっくり行うことを大切に考えて、日々のケアに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を美味しく楽しく食べていただけるように、テーブルや座席の配置を工夫している。入居者とともに準備して食事を摂ることで、料理の味付けや切り方についてなど、会話の弾む食卓となるように心掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人につき週3回を基本としているが、入浴は毎日行われているため、いつでも希望があれば入浴できる状態である。拒否傾向のある方へは様子を見ながら声かけをして、状況によってシャワー浴や部分浴、清拭へ変更して対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりに合った役割が自然と確立されており、食事の準備や片付けをされる方、お茶の時間に準備を担当される方、共用スペースの戸締りや朝にカーテンを開ける方などが居られる。日常的な楽しみごととしては、歌を唄ったりビデオを見たりすることができるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	寒い季節は、風邪予防の意味からできるだけ外出を控え、広々としたホーム内を散歩するようにしている。日常的に、希望に沿って外出する機会は十分とはいえない。	○	外出することで気分転換やストレス発散、五感の刺激を図ることができ、地域住民と交流する機会にもなるため、少しでも多く外出する機会を持てるように、勤務体制等を含めて検討していただきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関・居室ともに施錠されておらず、ベランダも自由に出入りできる。玄関から出ようとされる方に対しては、職員が優しく声かけをして対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接の医療機関、デイサービスセンターと合同で、年2回の避難訓練が行われている。ホームを出火場所と設定した訓練も行われており、通報手順や避難方法の確認、設備の点検等が行われている。地域の方々との協力体制は、今のところ確立されていない。	○	運営推進会議等を活用して、自治消防隊や地域住民にホームの存在を知ってもらい、互いに協力し合える関係づくりに積極的に取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量は概ね把握しているが、通常は記録管理はなされていない。しかし、主治医の指示がある場合や摂取量が少ない様子が見られる場合などについては、摂取量を細かく記録して状態管理がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングルームやベランダがあり、テーブルやソファのコーナーではゆっくりとお茶を楽しむ姿が見られる。1日3回気温のチェックが行われており、冷暖房や窓の開閉による温度管理がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとしたスペースに、おしゃれな洗面台とトイレが完備された居室には、好みの家具や使い慣れた小物などが持ち込まれ、ご家族の写真や季節の花々が飾られている。家具類は自由に配置され、個性的な居室となっている。		